

皮膚科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 大場 操

研修期間 4 週～

I. 対象となる疾患・病態

皮膚疾患全般が対象となる。

主な疾患としては、湿疹・皮膚炎群（アトピー性皮膚炎・接触性皮膚炎・皮脂欠乏性皮膚炎・うっ滞性皮膚炎など）。痒みが主体な疾患（蕁麻疹・痒疹など）。感染症（単純疱疹・水痘・带状疱疹・疣贅・膿疱疹・蜂窩織炎・白癬・カンジダ・疥癬・ツツガムシ病・皮膚結核・梅毒など）。

付属器の炎症性疾患（ざ瘡・汗疹・酒渣・脱毛症・多汗症など）。

膠原病（全身性エリテマトーデス・慢性円板状エリテマトーデス・全身性強皮症・限局性強皮症・皮膚筋炎・ベーチェット病など）。血管病変（IgA 血管炎・慢性色素性紫斑など）。炎症性角化症（乾癬、膿疱性乾癬、関節性乾癬など）。水疱症（天疱瘡・類天疱瘡など）。肉芽腫（サルコイドーシス・環状肉芽腫など）。物理・化学的障害（薬疹・中毒疹・熱傷など）。腫瘍性疾患（脂漏性角化症・日光角化症・有棘細胞癌・基底細胞癌・悪性黒色腫・悪性リンパ腫など）。

皮膚科だけで完結するものから、全身疾患の皮膚症状として表れている病変（デルマドローム）もあるため、他科と連携しながら治療を進めていく。また他科からは真菌症・褥瘡・薬疹（抗癌剤による皮膚障害を含む）・糖尿病や虚血による足潰瘍などの紹介依頼が多い。

II. 研修到達目標

・一般目標(GI0 ;General Instruction Objective)①

患者の主訴および皮疹の状態から診断を導き出し、最適な治療ができる。

・行動目標 (SB0s ;Structural Behavior Objectives) ①

- 1) 皮疹の観察および表現方法を学ぶ。
- 2) 患者の主訴および背景から鑑別診断を推定する。
- 3) 診断に必要な検査を実施し、結果を解釈する。
- 4) 病理組織学的診断ができる。
- 5) 皮膚疾患に対する治療を選択する。
- 6) 小手術に立ち会う。
- 7) 生物学的製剤の使用について理解する。
- 8) 患者および家族に説明し理解していただく。

・一般目標 (GI0 ;General Instruction Objective) ②

日常診療で遭遇する機会の多い皮膚疾患を数多く経験する。

・行動目標 (SB0s ;Structural Behavior Objectives) ②

- 1) 初診患者の予診をとり、皮膚症状を含む全体像を把握する。
- 2) 初診患者の診断を推定し、鑑別診断を考慮する。
- 3) 指導医と検討し、症例を理解する。

・一般目標(GI0 ;General Instruction Objective)③

入院を必要とする皮膚疾患を診療する。

・行動目標 (SB0s ;Structural Behavior Objectives) ③

- 1) 患者の全身状態を把握し、必要であれば他科と連携しながら診療する。
- 2) 患者および家族に説明し、最適な治療を選択する。
- 3) 退院後の生活を見据えて全人的に診療にあたる。

・一般目標(GI0 ;General Instruction Objective)④

専門治療な疾患を鑑別し、専門医や専門機関へ紹介できる。

・行動目標 (SB0s ;Structural Behavior Objectives) ④

- 1) 稀少疾患を鑑別できる。
- 2) 外科的治療や化学療法など専門治療が必要な疾患かどうか判断できる。
- 3) 適切な病院や施設に紹介することができる。

Ⅲ. 方略(研修場所：外来・病棟)

基本的には午前は外来、午後は検査・手術・他科入院中の患者診察にあたる。
皮膚科専門医が1名で指導する。
定期的な専門医からのレクチャーがある。
週に1回程度与えられたテーマの報告を行う。
随時、生検や手術標本の病理検討会を行う。

Ⅳ. 評価

上級医指導医との討論、症例検討会での症例提示、文献的な考察を加えてのレポート作成などを通して随時評価を行う。

Ⅴ. 研修医への提言

患者さんの社会的背景を理解し、良好な関係を構築できる。
また、社会人医療人としての態度・服装・言葉使いに心がける。
医療スタッフと良好なチーム医療を実践する。